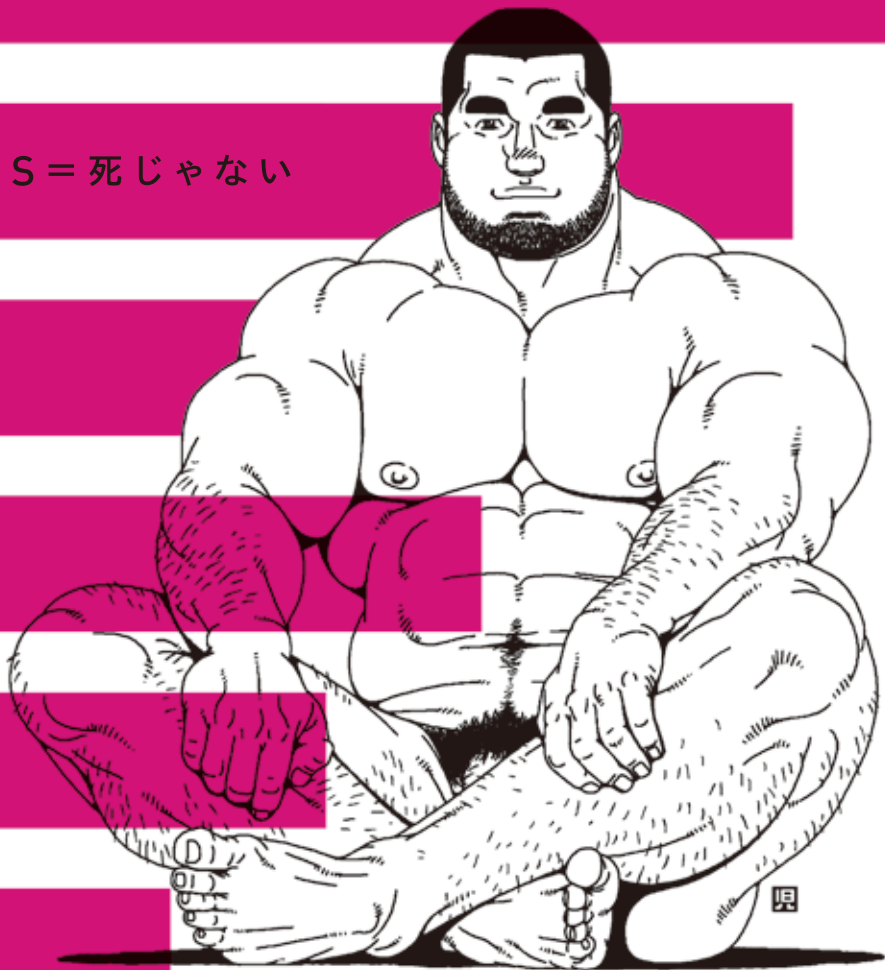


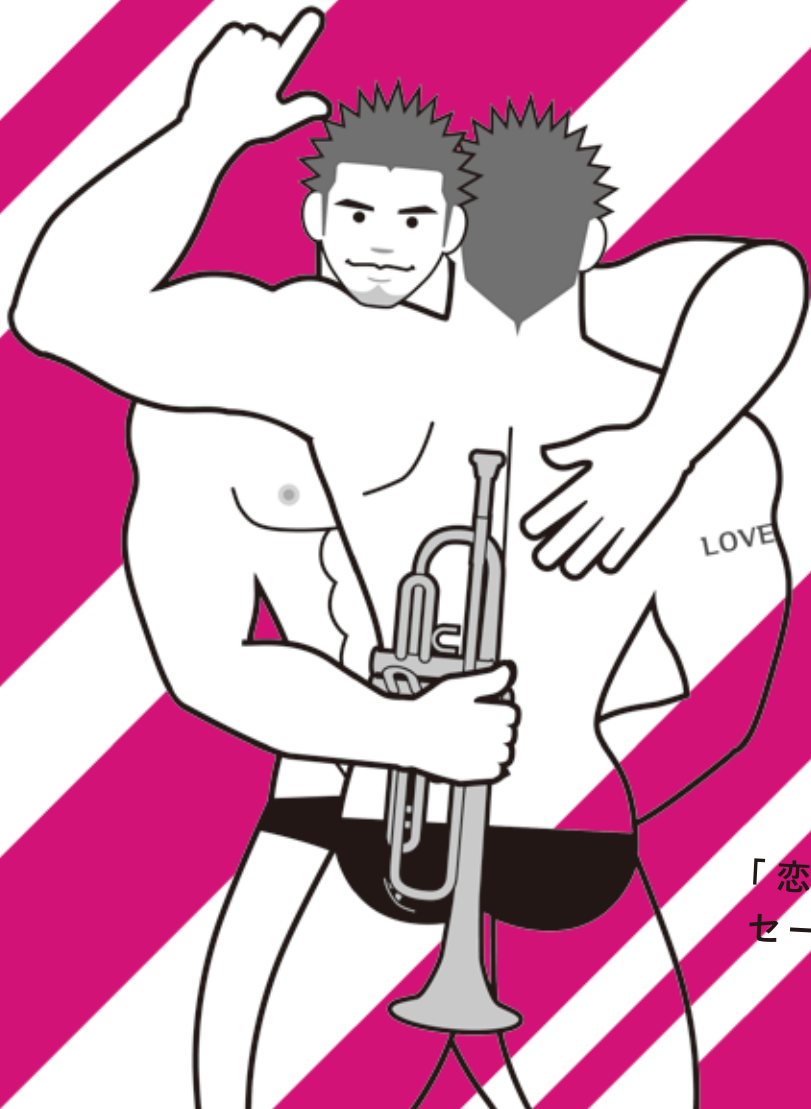
AIDS = 死じゃない



感染していることを早くに知って、治療を始めれば発病を防ぐことができます。でも、いろいろな理由で検査を受けることが出来ずに発病して、治療がむずかしくなるケースは今でもあります。

「AIDS = 死じゃない」とわかっているはずなのに、感染しているかもと本気で思ったとき、ただただ怖くなってしまったのは、どうしてなんだろう？なかなか検査も踏み切れなかった…。また、感染を知った後、「もうダメだ」と思って、体調が悪くなるまで病院に行かなかったという人もいます。それは、まだ社会のあちこちに、あるいは自分の心のどこかに、死とつながるイメージがまだ残っているから？あるいは、もっと他の何かを恐れているから？

怖がるあまり向き合えなくて、そのために、より大きなつらい状況を背負ってしまうことが、まだまだたくさんある。大変な闘病生活が長引いたり、障がいが残ったり、そして、やはり亡くなることも。だから、「AIDS = 死じゃない」、をほんとうに実現するのはひとりひとり。その言葉を社会や心のすみずみに響きわたらせるために、できることがきつとまだまだあるはず。



「恋人とも
セーフアーに」。
これ常識。

恋人から感染してしまった、という人は、意外と多い。「恋人だからナマで」というカップルは少なくないし、何度もセックスをする相手だけに、一方が感染してしまった場合には、もう一方にうつりやすいとも言える。

「ずっとお互いとししかHはしないから」。そう思い、あるいは誓って始めた関係…。でも、時間がたつ中で、ひよんなことから他の人とHをしてしまった、という人が少なくないのも事実。そして、ふだん恋人とコンドームを使っていない人は、他の人とも使わないことが多いということが、アンケート調査でわかっている。それでも、「お互いだけ」と信じている仲では、「他の人としちゃった」とは言いづらい。残念ながら、そうやって、恋人からうつってしまうことがある。よく考えてみたら、つきあっている相手とコンドームを使わないセックスを繰り返すことは、ナマでやることに対するハードルが下がり、将来にわたり相手や自分をリスクにさらすこと。それが、ほんとうに「愛」か、もう一度考えてみたい。

バリタチ ≠ 安全



「タチしかなかったのに、HIVに感染してしまった」とショックを受ける人がある。コンドームを使わなければ、アナルに入れることもリスクがあるし、フェラチオも感染することがあるのだ。

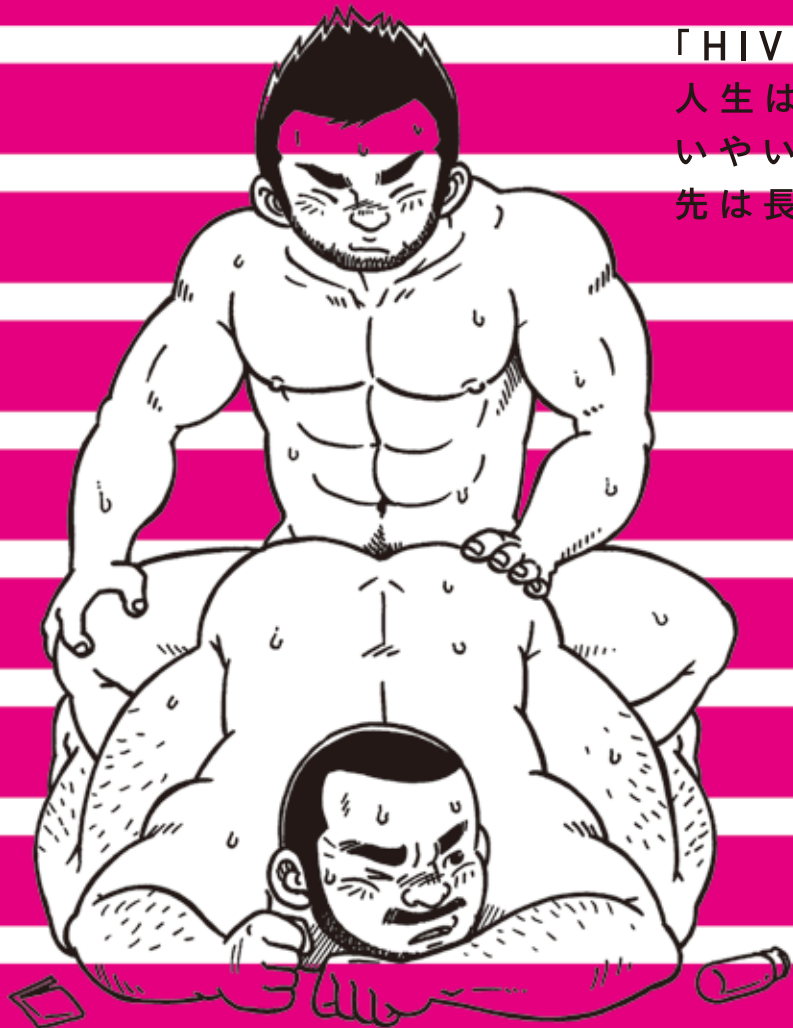
ここで、HIVがどうやって感染するか復習！ HIVが感染するかもしれないものは、次の体液のみ。血液、精液（さきばしり液にもまじることあり）、ちっ分泌液、母乳。腸から出る液にもHIVが含まれることが最近わかってきた。HIVを持つてる人のその体液が、粘膜（ねんまく）や傷口に付くことで、感染する可能性が出てくるわけ。粘膜というのは、直腸（アナルの中）、尿道口（おちんちんの先）、口の中、目、鼻や耳の奥。実は、アナルや直腸は血が出やすいので、その血が尿道口から入ったり、おちんちんの弱い部分の傷口から入ったりすることがある。だから、タチしなくても感染することが。相手の直腸の中に他の人の精液が残っていると、さらに感染しやすいよ。



HIVは何度も感染する!?

すでに感染している人にとっても、セーファーセックスはとても大事。HIVのタイプは人によって違いがあるので、ふたたび感染することで、免疫を早く下げてしまうことにも。

「もうきっと感染してるから、いまさら予防してもしょうがないし…」。本気かどうかわからないけど、出会い系サイトで知り合った彼は、そんなメールを送って来た。「そんなのわからないから予防するにこしたことないんじゃない?」と僕。「でも、数え切れないくらい、リスクなエッチをしたし…」。そう言われると、「うーん、なら確かに」と思ってしまうなくもない。でも…。「でもね、もし感染しているなら、そういう人こそ、自分の体を守る必要があるんだよ。何度もHIVを入れたり、他の感染症にかかったりすると、ダメージが大きいから」。そんなわけで、僕らは、セーファーなセックスをし、それをきっかけにセクフレになった。彼は最近、「検査に行ってみようかな」と言い出している。



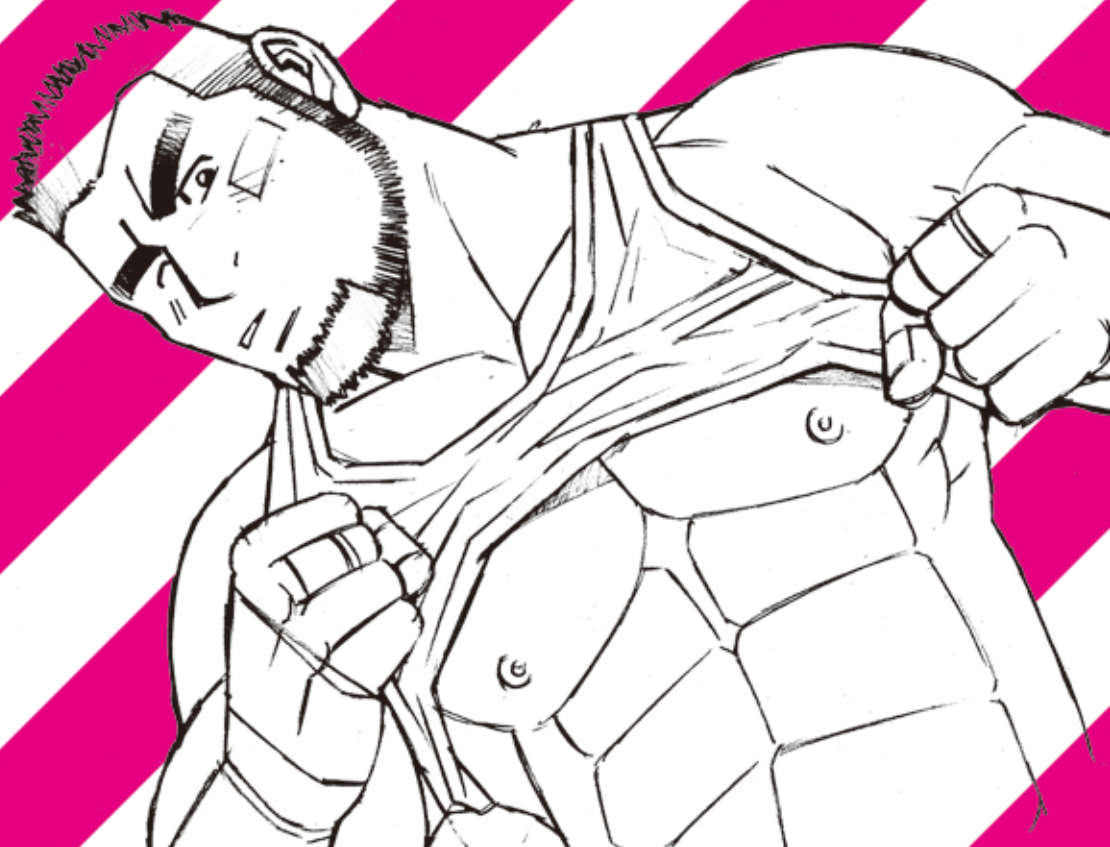
「HIV感染で
人生は終わり？」
いやいや、
先は長いんだよ。

この10年でHIVの治療法が大きく進歩した。
検査をして、早めに感染を知ること、適切な
時期に薬を飲み始めることができる。その結
果、HIVが血液中に見つからないレベルまで
抑えこむことが出来るようになった。

1997年頃までは、多くのゲイ/バイセクシャルがHIV/AIDSで亡くなってき
た。言いにくい話題のため、その事実はあまり知られていない。もちろん、今で
も発症したり、その寸前まで感染していることが分からなかったり、治療がむ
ずかしい症状が出る場合などがあって、完全にコントロールできるようになっ
た訳ではない。それに、強い薬を飲みを続けることによる副作用も当然ある。

専門家達は、こうした医学技術の進歩により、「HIV/AIDSで亡くなることは
非常に少なくなった」という。つまり、HIVに感染しても、その先の人生はまだ
まだ続くわけで、早めにわかって、対策をたてることが出来るってことだ。感染
していたとしても、走る長さは短距離ではなく、長距離のマラソンであること
が多い。

HIVの服薬には
金銭的な支援がある。



働いている人ならば、月に1～2万円で薬がもらえる。これは、血液製剤でHIVに感染した血友病の被害者たちが、国との和解交渉のなかで、安心して治療できる環境をつくってきてくれたおかげだ。

感染がわかると、すぐに服薬が始まるわけではないが、服薬が始まると高額な医療費がかかる。しかし、1998年からは身体障がい者の認定を受けることができるようになり、医療費を減らすことが可能になった。また、自立支援医療、重度障がい医療などの医療費助成制度を活用して、月々の自己負担金を1～2万円に抑えることができる。ただし、これは所得により金額が変動する。手続きを知りたい場合には、病院のソーシャルワーカーや役所の身体障がい者手帳の担当部署で相談しよう。

やっぱり、「No!ドラッグ」。



何かに対して、「これは絶対にダメ!」って言うのは、けっこうむずかしい。でも、ドラッグ（薬物）に関しては、自分に対して「ダメ!」と言う勇気を持とう!

ドラッグの危険については、だれもが知っているはず。Hのときに使うと、リスクーな行為に走りがち。なかには、体の抵抗力が落ちるドラッグもあるから、HIVも含めいろんな感染症にかかりやすくなる。種類によっては、深刻な影響を脳や体に与えるものもあるし、うつ傾向が強くなったりするメンタル面への悪影響もある。もちろん、言うまでもなく、依存症のおそれだって。「一回なら大丈夫…」そう思って始めて、抜けられなくなった人はたくさんいる。そして、当然逮捕されることも（報道されているのは逮捕者のごくごく一部）。だから、まずは絶対に手を出さないこと。既にやったことのある人は二度とやらないこと。そして、もし抜けられなくなっている人は、まずは薬物依存の相談先にアクセスして欲しい。同じ経験をもつ人達の経験が参考になるはず。

ひとりで抱えこまないで

だれでも問題を抱えることがある。精神的に参ってしまったたり、依存症になってしまったたり。そんなときに大切なのは、ひとりで抱えこまないこと。相談することは大きな一歩。

心が弱り、病んでしまう時がある。気力が無くなったり、生きていくのが嫌になったり、自分や他人を傷つけたくなくなったり。また、依存症になることも…。ストレスを何かの行動で解消するというのはよくあることだけれど、それがコントロールできなくなったり、日常生活に悪い影響がでたりしているなら、依存症かもしれない。ドラッグやアルコールだけでなく、セックスでもそういうことが起きる。そんな色々な形であらわれる心の問題も、体の病気と同じように、自分の力だけでは解決できないことが多い。「一人でがんばる」ことで、よけいに悪くしてしまうこともある。なるべく早いうちに、電話相談や専門家の診察などへアクセスしてみたい。誰かに話すことで、自分のことが見えてきたりするものだ。

「できる」ことって、
なんだろう？



HIV感染だけでなく、病気を抱えたり、障害を持ったりすると、それまでできたことができなくなることもある。それでも、いつも「できる」ことはいろいろあって、時には逆に新しく「できる」ようになることもある。

HIVに感染したことを知ったとき、まるですべてを失ったかのように感じる人は少なくない。将来の夢や、愛する人との関係や、なんの気兼ねもなく遊ぶことや…。

でも、落ち着いてくると、実はそうでもないことにだんだんと気づいていく。むしろ、それをきっかけに、新しく何かが「できる」ようになる人もいる。セーフターセックスができるようになり、その楽しみを知る人もいる。夢に向かってもっとがんばれるようになる人もいる。大切な人との関係を深めることができる人もいる。

HIV感染は、その状態を早く知ったほうが、そんな「できる」を見つけやすくなることが多い。そして、その「できる」は、まわりの人やコミュニティ全体の理解やサポートによって、広がったり高まったりする。つまり、HIV感染の後の「できる」のために、今できることが誰にもあるということだ。当の本人にも、周囲の人たちにも、もしかしたら未来の自分のためにだって「できる」ことはいくつもある。

すぐに役立つHIVの情報サイト

HIVとかエイズについて不安に思ったとき、セーフセックスについて知りたいとき、検査してみようか迷っているとき、陽性という結果を受け取ったとき、あなたの身近にいる人が悩んでいるとき。「HIVマップ」は、一人ひとりが自分なりのリアルな現実に向き合うことを応援して、以下のようなコーナーでHIVに関する役に立つ情報を整理して提供しています。

HIVマップ

<http://www.hiv-map.net/>



HIVお役立ちナビ

「HIVお役立ちナビ」は、HIVに関連するサイト／コンテンツをカテゴリー別に整理したリンク集／リソース集です。主にゲイ・バイセクシャル男性向けに役立つことを前提として掲載していますが、より多くの人たちにもご利用いただけるようになっています。



HIV/エイズガイド

感染のメカニズムや検査について。もし陽性だったら、治療やお金はどうなるの？ そんなあなたのHIV/エイズの「？」に、一番大事なことからお話しします。かわいイラストと対談形式の読みやすい文章でわかりやすく疑問にお答えしています。



あんしんHIV検査サーチ

これから検査を受けようか迷ったり、どこでどうやって検査を受けたいのか知りたい時に使っていただくコーナーです。主に首都圏のゲイ・バイセクシャル男性が安心して受ける事のできるHIV検査の紹介や、検査を受けるにあたって知っているとオトクな基礎知識を掲載しています。



FACE TO REAL

発行：エイズ戦略研究・MSM首都圏グループ <http://www.hiv-map.net>

問い合わせ：東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204 特定非営利活動法人ぶれいす東京

TEL:03-3361-8964(担当:生島、岩橋) E-mail:senryaku.tokyo@gmail.com

デザイン:瀧見 陽 発行:2009年/無断コピー・転載お断り

このカードは厚生労働科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」(研究リーダー:市川誠一)により作成されました。